

豊中市長 長内繁樹 様
豊中市教育長 岩元義継 様

2024年5月14日

万博・カジノについて考える豊中の会
共同代表 高橋もと子(豊中市蛸池南町 2-2-13-404)

大阪・関西万博に豊中市内の児童・生徒を「動員」しないよう求めます。

昨年8月、吉村・大阪府知事は大阪府内の4歳から18歳までの児童・生徒たちを万博に「無料招待」とすると表明。府は2023年度から2025年度にかけて、計約14億円の予算を計上しました。そして、大阪府教育庁は、学校ごとに遠足などの形で見学することを計画し、「強制ではない」とした上で、府内の学校に対して希望する来場日などを5月末までに回答するよう求めています。

今年元日に発生した能登半島地震によって、未だ多くの方々が避難所などでの生活を余儀なくされ、水道が復旧していない家も多数あります。まずは復興対策を最優先させるべきです。

3月28日、大阪・関西万博予定地の夢洲で溶接作業中に火花が可燃性ガスに引火して爆発が起きました。コンクリートの床およそ100㎡が破損するという大事故です。しかし、実施主体である万博協会は3週間後ようやく記者会見し、地中から発生したメタンガスが地下空間に溜まっていたことが原因で、「工事業者がガス検知を怠ったからだ」と説明。対策として「ガス検知器での測定場所や頻度を増やす」と工事は続行されています。ケガ人はいなかったとされていますが、現場写真は万博協会から提供された1枚の写真だけ、現場にいた人たちの証言もまったく公表されていません。

元々、このゾーンは有害物質やメタンガスが発生して危険なので立ち入り禁止区域でした。労働者はまさに命がけです。ゴミの最終処分地である夢洲はメタンガスを主成分とする可燃性ガス発生危険性は他にもあり、大阪市環境局の担当者は万博用地のどこでも爆発する可能性があることを認めています。こんな危険なところに子どもたちを連れて行って良いのでしょうか。子どもたちが使う駐車場の真下には有機物質が大量に埋まっているのです。

さらに、児童・生徒を引率する際の問題は山積しています。パビリオンが選べない、日程が選べない、駐車場から入り口まで約1kmを徒歩で移動しなければならない、昼食や休憩場所が確保できない、避難計画がない、熱中症など医療対策が示されていない、交通費負担の問題もあります。

そこで、私たちは豊中市内の小中学校校長・PTA会長に対して「本当に子どもたちを万博に参加させて良いのでしょうか」という文書を届けました。今、教育関係者からも教育的観点からの批判の声が上がり、「学校行事としては行わない」と表明する学校も出てきまし

た。

大阪・関西万博はカジノ事業を実施するために誘致されたことは周知の事実です。カジノ＝博打事業を進めるための万博を豊中市として積極的に応援して良いのでしょうか。

これまで予算の上振れが問題になってきましたが、これからも続くことが十分予想され、経済的負担をどのようにするかについても明確にされていません。海外パビリオン建設は大幅に減少したり遅れることは吉村府知事自身も認め、「万博に行きたい」という希望者が未だ少ないのは当然のことでしょう。その穴埋めとして児童・生徒が「動員」されるのは教育権侵害・人権侵害です。

以下のことを要請します。

1. 豊中市は「万博への気運醸成」キャンペーンに協力しないこと。
2. 万博が強行されたとしても、市内小中学の児童・生徒たちを万博に連れて行かないこと。
3. 学校行事の行き先や内容などは、各学校で決めるよう指導していただくこと。

なお、検討結果について文書で回答いただくか、話し合いの日時についてお知らせください。

連絡先 高橋もと子(090—5907—4909)